

## 【海外学会報告】

2020 年度 第 22 回韓国ケベック学会 参加報告  
 22<sup>e</sup> colloque de l'ACEQ (Association Coréenne d'Études  
 Québécoises)  
 Le samedi 14 octobre 2020, visioconférence (Zoom)

2020 年 10 月 14 日、Zoom 会議にて第 22 回の韓国ケベック学会の年次大会が開催された。私は日本ケベック学会の代表者として出席した。例年通り韓国に渡航し、多くのケベック研究者と直接交流する刺激を受ける機会に恵まれなかったが、会場で集まるより参加しやすいメリットも感じた。ケベック州在住の数名からの発表や日本ケベック学会の立花会長のご参加もオンラインによることで実現が可能となった。大会のテーマは「Transculturalité et identité culturelle québécoise」[異文化とケベックの文化的アイデンティティ]だったが主にケベック文学の諸問題について議論が展開した。

Yong Taek Han 会長の開会挨拶後、コンコルディア大学の Sophie Marcotte 氏による *La question de la dualité identitaire dans la série de reportages Tout-Montréal de Gabrielle Roy* という発表で研究に飛び込んだ。1941 年にガブリエル・ロワがモンレアルの日常生活について書いた記事シリーズを Marcotte 氏は読み直され、『かりそめの幸福』を始め、その後のフィクション作品を理解するための新しい視点としても、ロワのアーカイブ研究に重点を置くための方法としても再考された。また、*Tout-Montréal* のシリーズはロワが感じたモンレアルにおけるフランス語と英語の共存に対する違和感を理解するための重要な作品であると証明された。発表後質問が多く、ケベック州における文学研究の最先端を把握するために有意義な時間だった。残念ながら、時差のため Marcotte 氏が早退されたので、それ以上交流できず、そこでオンラインのデメリットを感じた。

午後も文学を中心に話が続いた。In-kyeong Kim 氏が Gérard Bessette の名作 *Le Libraire*、Song-i Lee 氏が Nicole Brossard の詩について韓国語で発表された。パワーポイントに表示されたフランス語の引用を見ながら、要点を掴もうとしたが、限界があった。しかし、ディスカッションの際、韓国ケベック学会

の会員が丁寧にそれぞれの発表の内容をフランス語で説明されたので、最終的に韓国におけるケベック文学研究の現状と今後の課題を理解できた。

私は *Traduction, communication interculturelle et éducation: la représentation du maître idéal de Jacques Rancière à Philippe Falardeau* でジャック・ランシエールの『無知な教師 知性の解放について』を参考にしながら、フランスとケベック映画における教員の理想像の描写を比較し、それから両者の教育に対するイデオロギーについて何を推測できるか提案した。発表後、多くの方からのコメントがあった。今年中にこのコメントを参考にし、論文でまとめる予定。

大会終了後、少し雑談する時間が設けられた。異文化理解や国際交流、韓国社会などの話題が出た。今回ははじめて韓国ケベック学会の年次大会に参加することができ、素晴らしい経験だった。Zoomの利便性は否定できないが、対面の代わりにならない部分もあると改めて実感した。近い将来、是非韓国を訪れ、現地での研究環境の雰囲気を肌身で感じながら、両国ケベック学会間の発展に少しでも貢献できるように努力したい。

(スティーブ・コルベイユ 聖心女子大学)